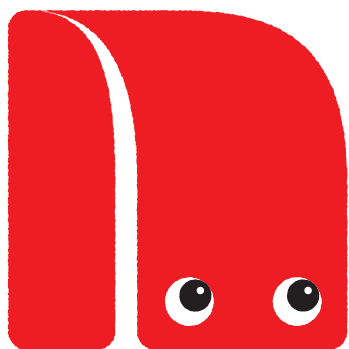


眠っているランドセルをアフガニスタンの子どもたちへ



思い出の ランドセル ギフト

貧しい村の女の子にも、
学校に通える幸せを。



アフガニスタンでは、紛争で多くの学校が破壊されました。
今でも青空教室で勉強している子どもたちがいます。

**子どもたちの教育を支援するため、
日本からランドセルを送りませんか。**



2004年から約27万人の
アフガニスタンの
子どもたちに
ランドセルを
手渡しています

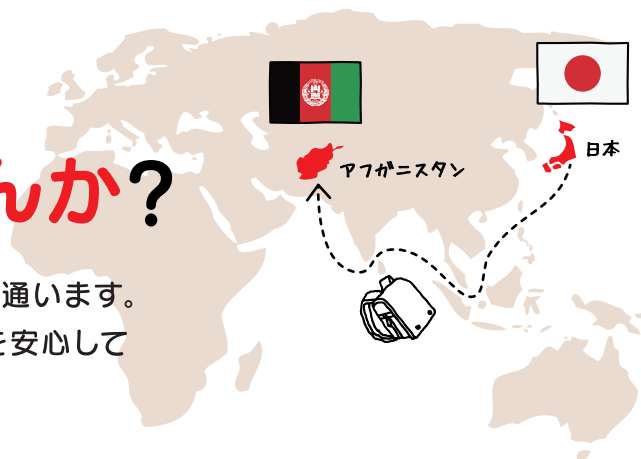
ジョイセフアンバサダー 富永愛さんからのコメント



ランドセルには、とても思い出深いものがありますね。初めて学校というひとつの社会に入るドキドキ感、友達と過ごした楽しい時間も、悲しい思い出も、6年間の思い出が詰まった大切な宝物です。実際に私は自分のランドセルを卒業してから何年もの間、手放せずにいました。息子が小学校を卒業したとき、この「思い出のランドセルギフト」を知っていた私は、息子と相談し寄付することにしました。最終的には捨ててしまった私のランドセルも、この活動を知っていたらきっと、寄付していたとおもいます。大切な宝物を誰かに引き継いで貰えたら、それはまた新たな物語となり、私達の、子どもたちの思い出も昇華されていく…。そんな素晴らしい活動を是非ご支援ください。

日本での役割を終えた ランドセルを送りませんか？

険しく危ない山道を子どもたちは何時間もかけて、学校に通います。
ランドセルを背負うと両手が自由に使え、危険な通学路を安心して
通うことができます。



小学校を最後まで終える女の子は4割

アフガニスタンの女の子は男の子より教育を受ける機会が少なく、6割の女の子が小学校を卒業できていません。

女の子と男の子が同じランドセルを背負って一緒に学校に通うことは、女性への偏見や差別を減らすことにつながります。ランドセルは女の子が学校へ行くための、きっかけ作りに役立っています。

12～13歳で結婚し赤ちゃんを産む少女が少なくない

15～24歳の文字の読めない女性は68%。
文字の読めない妊産婦は、妊娠・出産・育児に必要な保健や衛生の知識や情報を得ることができません。

文化的な理由から女性の医者でないと受診できない女性たち。ランドセルは両親が女の子の初等教育を認めてくれるきっかけとなり、女性のお医者さんと助産師・看護師・スタッフの育成にもつながります。



9歳の時にノートとクレヨンが入ったランドセルをもらいました。それまではビニール袋で通っていました。とてもうれしくて毎晩抱いて寝ていました。ランドセルは今も大切に持っています。ランドセルを受け取った時、どんなことがあっても絶対勉強を続けようと思いました。今は医師として勤務しています。アフガニスタンの人々に勉強して国のために働こう!と伝えたいです。

ランドセルを受け取ったリマさん ▶



ランドセルをアフガニスタンに届けるためには海外輸送費等の経費がかかります。
1個につき2,500円の海外輸送費のご協力をお願いします。

郵便振替による
海外輸送経費の払込み先



- 2,500円 × 個数
 - 郵便振替口座 00190-2-78370 口座名義 公益財団法人 ジョイセフ
- ※払込手数料免除口座（ATMでは手数料がかかります。）
※通信欄に「ランド」と記載してください。

クレジット/コンビニ支払いの方法は左記のジョイセフのサイトまで

ランドセルの送り先

〒143-0001 東京都大田区東海 4-7-7
鴻池運輸 大井物流営業所内 サンライト「ジョイセフランドセル」係
※電話番号の記載は不要です。※送料はご負担ください

公益財団法人ジョイセフは、世界の妊産婦と女性の命と健康を守る活動をしている国際協力NGO。現地の子どもたちにランドセルを手渡すために、検品、梱包、輸送、配付を行っています。

ジョイセフ ランドセル

検索

女性。選択できる世界を。

JOICFP

www.joicfp.or.jp/rand



お問い合わせ

公益財団法人ジョイセフ

✉ info@joicfp.or.jp